

2016年2月

SoC851

The Proliferation of Financial Technology

By Eilif Trondsen; etrondsen@sbi-i.com

金融テクノロジーの増殖

アプリを利用した配車サービスの会社である米国の Uber Technologies が、タクシー業界にしたこと。Apple とその音楽プレイヤー iPod が、音楽業界にしたこと。Amazon.com が、(より大きい小売業全般ではないにせよ) 書籍小売業界にしたこと。近年、このような動きを表現するのに「破壊(disruption)」という言葉が広く使われるようになった。シリコンバレーで使われているイノベーション関連の語彙のひとつに「ウーバライズ(uberize)」がある。さまざまな業界で高収益の事業を運営していた企業が、テクノロジーによる劇的な影響を受け、あっという間にその収益性が弱体化するという意味である。しかし、言葉というものは過剰な使われ方をすることがあり、言葉の意味は歪められやすい。ビジネス情報提供会社である米国の Factiva によると、「破壊的イノベーション」や「破壊的テクノロジー」などの用語の使用件数が近年、飛躍的に増えている。これらの用語が出現する記事の数は、2010年には500件をやや超える程度だったが、2014年には2,000件以上になっている。「破壊的イノベーション」という表現を広めた本人である Clayton M. Christensen は、この言葉を使い始めたとき自分が何を言い表していたかを明確にするため、最近、やむを得ず新しい記事を共同執筆している。Harvard Business Review 2015年12月号に発表されたその記事の中で、Christensen、Michael E. Raynor、Rory McDonald は、Uber は破壊的な企業ではない、同社のテクノロジーは破壊的テクノロジーには相当しないと明言している。

「破壊」という言葉は間違った用法で過剰に使われる傾向があるとはいえ、既存の企業は、この言葉が出

フィンテックによる従来の金融サービス業への影響はすでに始まっている。世界規模の金融サービス業界は、多くの理由から破壊に対して脆い。

てきたら十分に注意したほうがいい。というのは、本物の破壊は企業のビジネスモデルに影響を及ぼすからだ。たとえば金融サービス業界では、在来型の企業—小売銀行、投資銀行、クレジットカード会社、その他にも資金を管理するさまざまなタイプの企業—が、多種多様なスタートアップ企業からの追撃を受けている。これらのスタートアップ企業の中には、破壊的テクノロジーを利用する企業もあれば、新しいコンセプトを採用する企業もある。もし「ウーバライズ」という言葉が、

業界の基本構造や競争環境に起こる単なる突然の変化を指すのであれば、金融サービス業界はウーバライズされる可能性がある。ウーバライズはちょっとした流行語だが、アナリストや財務担当役員の間でも、金融サービス業界の少なからぬ部分に急激な変化が起こるという予測が増えている。もうひとつの新しい流行語に「フィンテック(FinTech)」がある。金融サービス

業に浸透し、業界の様相を一変させる可能性のある新開発のテクノロジーを指す。フィンテックによる従来の金融サービス業への影響はすでに始まっている。世界規模の金融サービス業界は、次のようにいくつかの理由から破壊に対して脆い。

- ・ ポジティブな体験が積み重なったおかげで、今の消費者はスタートアップ企業のサービスを利用することに対し、以前よりも積極的になっている。それに加えて、2007年から2009年にかけての恐慌の結果、従来の金融機関に対する消費者の信頼感が損なわれている。
- ・ 米国の PayPal Holdings を例外として、今日の金融業界で大手とされる企業は、過去何十年にもわ

たって業界大手だった。ところが合併や倒産によって業界地図が書き換えられ、スタートアップ企業が探索する余地のあるニッチ市場や市場セグメントがいくつもある。

- ・ほとんどの金融機関は大規模で相対的に動きが不活発なため、新しいテクノロジーの採用が遅い傾向がある。これと対照的に、スタートアップ企業はテクノロジーを競争優位への切り札として活用する。
- ・スタートアップ企業は各種テクノロジーを巧みに組み合わせ、顧客にとってのメリットを作り出す。クラウド・コンピューティング、ビッグデータ、アナリティクス、人工知能、モバイル技術など、新しいテクノロジーの利点を総動員することで、コストを削減し、消費者や企業に優れたサービスを提供する方法を発見している。

英国の TransferWise は、新しいテクノロジーを利用して金融サービス業界を変革するスタートアップ企業の強力な実例である。海外への送金は手数料が高いのが普通だが、そんな手数料なしで海外送金できる仕組みを作ったこのスタートアップ企業は、2010年にエストニアで設立され、現在は英国のロンドンを拠点に営業している。TransferWise によると、現在同社のプラットフォームを通じて月間 7.5 億ドルが送金され、同社は前月比 15~20%のペースで成長を続けているという。2015年1月、Business Insider が同社の潜在力に着目し、TransferWise のプラットフォームを Apple のカードレス決済システム Apple Pay と比較した。Business Insider の解説によると、Apple のテクノロジーは保守的である。「既存のバンキングの仕組みを破壊するのではなく、補強するテクノロジーである。一方 TransferWise の成功は、そのまま銀行の純利益に響く。TransferWise が行う決済はどれひとつとして銀行業務が介在しない」(『Why TransferWise's \$1 Billion Valuation Will Terrify The Banks (TransferWise の企業価値評価 10 億ドルを銀行が

恐れる理由)』、Business Insider、2015年1月26日、電子版)。

フィンテック関連のスタートアップ企業が勢いを増して存在感を強めるにつれ、金融サービス業界の有望な分野をターゲットとする新しいスタートアップ企業にさらなる資金が注ぎ込まれる。米国の Accel、Andreessen Horowitz、Battery Ventures、Benchmark など、ベンチャー・キャピタル企業はすでに、フィンテック関連のスタートアップ企業とテクノロジーに莫大な投資を行っている。これらのベンチャー・キャピタル企業は潜在的に大きい投資見返りを予想しており、思い切った賭けに出る意欲を示している。

フィンテック関連の動きは、ロンドン、ニューヨーク、シンガポール、シリコンバレーなど、金融とテクノロジーが盛んな少数のセンター(集積地)に集中している。これらのセンターは、世界中から新しいスタートアップ企業を競って誘致しており、スタートアップ企業にとって好条件の規制環境を用意している場合が多い。起業家としても、これらのセンターで事業を始めるのは有利である。たとえば近隣にベンチャー投資機関、インキュベーター団体、スタートアップ企業のネットワークが揃っている。

事業への支援が強化されるにつれ、スタートアップ企業はニッチ市場を発見し、そこに足場を築く。これらのニッチ市場によって、一部のスタートアップ企業が顧客の注目を集め、事業を拡大していく可能性がある。ある種の金融サービスで消費者にとって有益なアプリケーションや大幅なコスト削減が多く見られるようになるだろう。既存の企業には広い範囲に及ぶ競争相手の出現が予測され、最終的にコアビジネスが挑戦を受ける可能性がある。それを破壊と呼ぶのか、ウーバライズと呼ぶのかに関わらず、金融サービス業界の変化はすでに始まっている。

SoC851

本トピックスに関連する Signals of Change

SoC728: [暗号通貨の潜在力](#) (2014/5)

SoC713: [ビットコインを考える](#) (2014/3)

SoC554: [揺れる国際通貨体制](#) (2011/12)

関連する Patterns

P0827: [ブロックチェーンブロック...](#) (2015/9)

P0812: [ビットコインの辛苦](#) (2015/8)

P0805: [シリコンバレーから広がる影響](#) (2015/8)

Visit www.strategicbusinessinsights.com or e-mail info@sbi-i.com to learn about Scan™